

今枝らの指摘する如く、肝の可塑性の変化と肝病態との関連において、坐位像撮影の臨床的意義に関心もたれるが、現在検討中である。

**24. 腎診断薬の開発に関する研究(第7報): 新しい診断薬  $^{99m}\text{Tc}$ -DMP (dimercaptropionic acid) の基礎的検討**

柳沢 宗利   町田 豊平   三木 誠  
大石 幸彦   木戸 晃   近藤 直弥  
(慈恵医大・泌尿器)  
田中 彰   (国立衛生試験所)

2個のSH基を分子内にもつ簡単な化学構造を有する脂肪族化合物 dimercaptropionic acid (DMP) に

$^{99m}\text{TcO}_4^-$  を標識した新しい腎イメージング剤を開発し、腎集積について、基礎的検討を行なった。

DMP に  $^{99m}\text{TcO}_4^-$  を標識する際の条件、すなわち、DMP と 2 価の Sn との混合比や pH による腎集積の変化について検討し、混合比を 3:1, pH を 2.0~2.5 の条件に設定した。

$^{99m}\text{Tc}$ -DMP は良好な腎集積を示し、さらに腎からの排泄がすみやかで、家兎を用いて行なった腎イメージングの実際で、良好な腎イメージを得ることができた。

この新しい化合物は、現在まで開発された腎親和性を有する化合物の中で、最も単純な化学構造をもつ化合物であり、汎用されている DMS に比べ、合成が容易であることなど有望な腎イメージング剤と考えられ、今後さらに臨床応用への検討を行う予定である。